

震災から10年。 東海地域での暮らし



若者一人ひとりの今の思い

10年が経過し、子どもたちはそれぞれ高校生や大学生、社会人に成長しました。予期せぬ避難から新しい土地でのこれまでの暮らしの中で、大切な人と出会い、いい事もたくさんあったという人もいれば、嬉しかったことはないという人もいます。肝心なのは、様々な心情を尊重し、一人ひとりのこれからの未来を応援していくことです。

子ども・若者の声

- 家族に大学で東北に行ってもいいか相談したら、「何のために避難したのか、放射能が怖くて来たのに戻るの?」と言われた。家族の思いをわかった上で聞いた確認作業でもあったので、納得はしている。自分なりの区切りをつけたかった。
(福島県いわき市:現在大学3年生)
- 最初はみんな戻れると思っていた。大人が思っていた分、そう思っていた。でも今戻っても家もないし、戻らないんだなと思ってからは、生活の基盤がこっちになって、戻りたいという気持ちはなくなった。
(福島県富岡町:現在大学3年生)
- 嫌な思い出や悲しい思い出もあるけど、時が経過するにつれて、思い出すのがだんだん大丈夫になってきたように感じる。最近
は人生の早めの節目だったと思うことにしている。
(福島県国見町:現在大学1年生)

311県外避難者について考えよう